令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第二小学校　第１学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・助詞の「は、を、へ」を文や文章の中で正しく使うことに課題が見られる。 ・相手の話をしっかりと聞いたり、相手の発言を受けて言葉を返したりすることに課題が見られる。 ・文章を正しく音読したり正しく発音したりすることに課題が見られる児童が２割程度いる。	・経験したことを文章に書く機会を繰り返し設け、３学期末までに８割の児童が正しく記述できるようにする。 ・ペア対話の機会を国語の授業以外にも作る。対話活動の前にはモデルを提示する。 ・一斉やグループ、個人など様々な形態での音読を行い、３学期末までに９割の児童が語や言葉のまとまりを捉えて音読できるようにする。
算数	・１０までのたし算とひき算の計算は９割以上の児童が困難を感じることなくできている。 ・式を立てて答えを出すことはできるが、答えを出す際に、単位をつけて回答することに課題が見られる。 ・文章を具体的にイメージすることに課題が見られる児童は３割程度である。	・計算カードによる練習や補充問題を定期的に行い習熟を図る。 ・何を聞かれているのか意識付けをするために問題文に印を付ける。 ・８割以上の児童がワークテストで９０％以上とれるようにする。 ・問題場面を具体物などで表す。また、自分のノートに絵や図で問題場面を表す活動を授業に取り入れる。
生活	・身近な自然や育てた植物を観察した際、気付いたことを絵や言葉で表現することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・学校生活や公共施設において、それを支える人たちがいることに気付いている児童は１割程度である。 ・自分でできるようになったことが増えていることに気が付くことに課題が見られる児童は１割程度である。	・国語の学習と関連付けたり、見本となる観察カードを掲示したりして、書き方を捉えやすくし、９割の児童が自力で記録できるようにする。 ・支える人の存在に気付ける活動を取り入れたり、互いの生活経験を交流したりすることで気付きを促すようにする。 ・自分の成長を捉えられる活動をし、全員が肯定的に自分の成長を感じられるようにする。
道徳	・題材をもとに考え、自分の意見を進んで伝えている。 ・他者の考えを聞いて考えを深めたり、広げたりすることに課題が見られる。	・1時間の中で児童に「何を考えさせ、何に気付かせたいのか」というねらいを明確にする。 ・ペア対話やグループでの話し合いに際しては、個人で考える時間を十分に確保する。また、他教科でも交流の時間を設け、友達の話を共感的に聞く態度を育てる。

東久留米市立第二小学校　第２学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文章の大体の内容は読み取れるが、細かい内容を読み取ることに課題が見られる児童が１割程度である。 ・漢字を文章中で正しく使用することに課題がある児童は１割程度である。 ・自分の考えたことを言葉で表現することに課題がある児童は２割程度である。	・段落、場面、接続語、挿絵など、着目するポイントを指導し、９割以上の児童が細かい内容まで読み取れるようにする。 ・漢字の書き方だけでなく、使い方がわかるように文章の中で書く練習を行い、９割以上の児童が文章中で正しく使用できるようにする。 ・スピーチや発表、グループでの話合い活動など、自分の考えを表現する活動を充実させる。
算数	・繰り上がりや繰り下がりの筆算を用いて計算することに課題が見られる。 ・量の単位と測定の学習（時間、長さ）では、正確に測定・表記することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・数字の意味を考えること、問題文を読むこと、立式することに課題が見られる児童は１割程度である。	・授業の冒頭に前回までの復習問題をして、学習内容の定着を図る。 ・机間指導をし、個別に支援が必要な児童に指導する。 ・絵や図の活用、具体物の操作など、視覚的理解を促す手だてを工夫する。
生活	・自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えること、集団や社会の一員として安全で適切な行動をすることに課題が見られる。 ・様々な体験を通して気付いたことや自分の思いを表現する力に課題がある。	・相手意識をもたせるために、中間発表の活動を計画したり、単元ごとに班編成を工夫したりする。 ・学習カードや発表会など様々な表現方法を経験させる。
道徳	・道徳的諸価値について、自分のこととして捉えることに課題が見られる児童は２割程度である。	・めあてや発問を工夫し、論点を明確にする。 ・選択肢を与えて選んだ理由を考えるなど、誰でも話合いに参加できる授業展開を充実する。 ・役割演技や動作化を取り入れ、学習カードで活動後に気付いたことや考えたことを振り返る。 ・教師や児童の体験を伝え合うなど、自分の経験と結びつけて考えられる活動を充実する。

東久留米市立第二小学校　第３学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・話の内容を聞き取り、その内容に対して適切に質問することに課題が見られる。 ・内容を整理して、ひとまとまりの文章にまとめることに課題が見られる。	・「話すこと・聞くこと」の単元で、聞き取った内容に対して更に深めるための質問をする場面を確保し、７割５分の児童が適切に質問することができるようにする。 ・「はじめ」「中」「終わり」の形で文章にまとめる経験を積ませ、３学期末までに８割の児童が２００字程度のひとまとまりの文章を書くことができるようにする。
算数	・生活とつなげて適切な単位を選ぶことや、単位の換算に課題が見られる。 ・解き方やその理由について、自分の考えを説明できる児童が３割ほどいる。	・時間、長さ、単位を扱う授業の時、具体的に想起できる教材を提示し繰り返し習熟させる。 ・自分の考えを図や式、文章で表すことができるようにする。 ・単元に１回は、自分の考えを交流することを活動の中心に位置付けた時間を設ける。
理科	・試行錯誤や、実験をさせた時に、問題を科学的に解決することに課題が見られる。 ・観察した後に気付いた事や思ったこと、疑問を表現することに課題が見られる。	・観察や実験等の後には、結果をまとめる十分な時間を設定する。 ・観察カードを繰り返し書き、その都度、気付いたこと、思ったこと、疑問を書き出すように指導する。
道徳	・道徳的諸価値について、自分事として捉え、考えをまとめることに課題が見られる。	・授業内の時間で、自分と向き合う時間をしっかりと確保する。 ・ペアや小グループ討議などの意見交流の場を工夫する。

東久留米市立第二小学校　第４学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・説明文では、筆者の考えに基づき話の中心をまとめることに課題が見られる。 ・物語文では、本文の言葉に着目して、場面や人物の様子を読み取ることに課題が見られる。	・説明的文章の単元で、大切な言葉や中心文に着目しながら、段落や文章の大事なことを短い文でまとめる機会を確保し、８割の児童が話の中心をとらえられるようにする。 ・キーワードとなる言葉に印を付け意味を確認するなど、学習の中で言葉に注目させる機会をつくる。
算数	・３年生までの基本的な計算力に課題が見られる児童は２割程度である。 ・解き方やその理由について自分の考えを説明することに課題が見られる児童は３割程度である。	・授業の始めや終わりに、単元中に必要な基礎問題に取り組む時間をつくる。 ・数直線図やアレイ図など自分の考えを表現する方法を指導する。考えを交流できる時間を設定する。
理科	・観察したときに気付いたこと、考えたこと及び疑問を表現することに課題が見られる児童は１割程度である。 ・実験器具を正しく用いるなど、観察、実験に関する技能に課題が見られる。	・観察の観点を明確にする。 ・特に電気のモーターカー作りにおいて直列、並列のつなぎ直しなど作成→分解→他の回路を作成→分解→元の回路に作成など意図的に修正する場を設定する。
道徳	・ねらいとする価値について、自分事として捉えることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・自分の意見や考えを文章で表現することに課題が見られる児童は２割程度である。	・役割演技等を行い、実際に自分が考えた言葉を言わせるなど、創造的に表現する場を経験させる。

東久留米市立第二小学校　第５学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・物語では、多くの児童が登場人物の心情を意欲的に考えることができるが、自分の考え表現することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・説明文では、多くの児童が文の構造については理解してるが、筆者の主張とその根拠を結び付けることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・多くの児童が長い作文を書くことに抵抗をもっており、表現を工夫して文を書くことに課題が見られる児童は２割程度である。	・物語、説明文とも全体を読み取るだけでなく、場面、段落ごとに読み取らせる。また、大切な部分に線を引かせ視覚的に分かるようにし、９割近くの児童が自分の考えをもてるようにする。 ・長い文を一度に書くのではなく、短い文を書くことで、苦手意識をなくすようにする。また、日記などを日常的に書いたり、友達の良い表現を提示し９割が長い文章を書けるようにする。
算数	・乗法及び除法の意味と方法について考察することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・問題文を読んで立式することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・既習事項を基にしながら観察したり試行錯誤したりしながら結果や方法の見通しをもつことに課題が見られる児童は３割程度である。	・計算の単元だけでなく、朝学習や宿題などで計算練習をして、９割近くまでできるようにする。 ・数直線、表、絵などを使い、問題の内容を確認し、９割近くの児童が立式できるようにする。 ・新しい単元に入る時には、以前の学習を想起させる。相違点を見つけさせ、似ている部分を使い、学習に取り組ませる。
理科	・実験、観察に際して、予想を立てることに課題が見られる児童が２割程度である。 ・実験や観察の結果から、規則性などを見つけることに課題が見られる児童は２割程度である。	・普段の生活を想起させたり、映像を見せたりすることで、９割以上の児童に予想を立てさせたい。 ・１つの実験結果だけでなく、全ての結果を提示することで共通点を見つけさせる。そこから規則性などが考えられるようにする。
道徳	・授業では、話の内容については意欲的に考えることができるが、道徳的諸価値について、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることに課題がみられる児童は２割程度である。 ・他者と比較して特に自分の目立つ点を捉え、自分の考えの特徴を知ろうとすることに課題が見られる。	・授業の途中で、補助発問を計画的に行う。さらに動作化や役割演技等の表現技法の工夫を用いることで、文章で記述することが苦手な児童に、自分の考えを表現できる場面を提供する。そして、まとめで９割近くの児童が自分の考えをもてるようにする。 ・他者と触れ合う時間を道徳以外にも意識的に作ることで、多くの児童が他者の考えを認められるようにする。

東久留米市立第二小学校　第６学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・説明文の読み取りで、中心部分を捉えることができず、筆者の主張とその根拠を結び付けて考えることに課題が見られ３割程度である。 ・「書くこと」については、日常のことについて書くことができる児童は多い。しかし、題意を捉えて書くことについて課題が見られる。また、作文において話を膨らませたり、表現の工夫をしたりすることにも課題が見られる児童は４割程度である。	・重要語句に着目しながらサイドラインを引く経験を積むこと、ワークシート　使いながら文章の構成を理解させることで、８割の児童が筆者の主張とその根拠を結び付けて考えられるようにする。 ・日常的、継続的な取り組みの中で表現や題材を限定した作文にも取り組ませ、題意を捉えて書くことができる児童を７割程度にする。
算数	・分数・小数の混合計算において計算の意味と方法について考察することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・既習事項を基にしながら観察したり試行錯誤したりしながら結果や方法の見通しをもつことに課題が見られる。 ・問題文の内容を読み取り、立式することに課題が見られる児童は２割程度である。	・授業の始めや終わりなどに東京ベーシックドリルや、eライブラリの問題を用いて９割程度の児童が５年生までの既習内容を理解し活用できるようにする。（家庭学習を含む） ・４マス関係表や数直線図を用いて、立式の根拠を８割の児童が説明できるようにする。
理科	・自分の考えの根拠を示して予想を立てることに課題が見られる児童は４割程度である。 ・予想や仮説を基に、解決の方法を発送することに課題が見られる児童は３割程度である。	・実生活に結び付けて考えられるような事象提示をすることで、８割の児童が理解できるようにする。 ・予想や仮説を全体で共有する。発想につながる実験器具を提示することで、８割の児童が解決方法を発想できるようにする。 ・教科書の振返りの時間を十分に確保することで、８割の児童が単元の内容を理解できるようにする。
道徳	・児童が日常の体験やそのときの感じ方や考え方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりすることに課題が見られる児童は２割程度である。	・自分事として考えられるような主発問と補助発問の工夫をする。適宜、逆説的な発問をすることで９割の児童が内容を自分事として捉え、考え議論できるようにする。